

北薩労安対策会議の歩み～衛生推進者になって超勤削減！～

帖佐幸子 鹿児島 阿久根市立山下小学校

## A はじめに

厚生労働省が学校の労働安全衛生の改善・整備を勧告した1997年以降、2010年頃になっても学校の労働安全衛生体制は整わずとりくみも進まない、そして、学校はいつまでも超勤がなくならず多忙化した状態が続いていた。そこで、2012年度に「北薩労安対策会議」を発足させ、「(可能であれば)組合員が推進者を担う」という方針をうち出しとりくみを進めてきた。

## B 北薩労安対策会議の基本的な考え方と概要

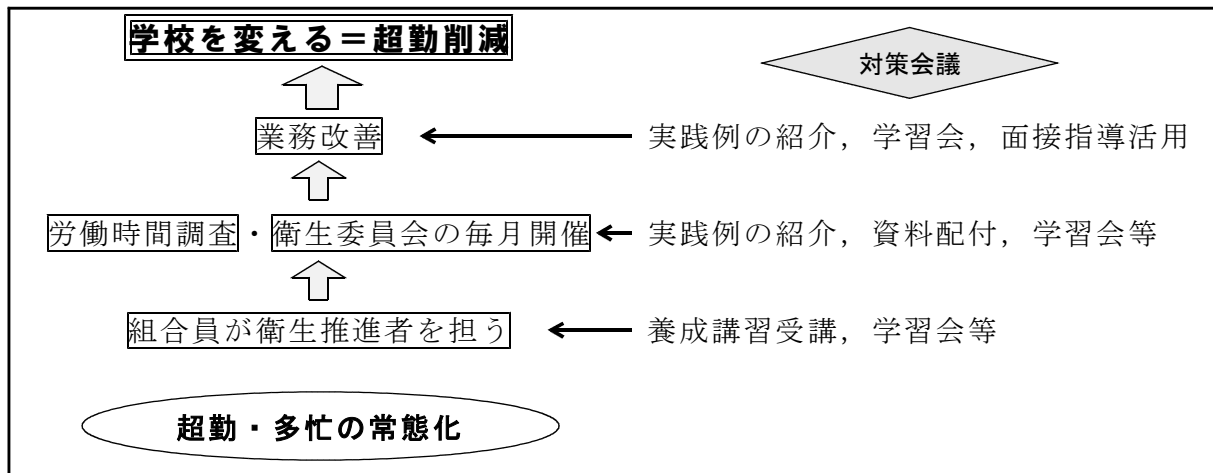
### (1) 基本的な考え方

- 組合員が衛生推進者を担い、学校の労働安全衛生のとりくみを進める。
- 衛生委員会を毎月開催する。
- 超勤削減、多忙化解消を学校の労働安全衛生の中心課題としてとりくむ。
- 各学校の衛生委員会のとりくみ(実践)を交流し、とりくみを深める。
- 労安に関する学習を深め、組合員の疑問や相談、期待に応える。

### (2) 北薩労安対策会議の概要

当初、支部としてのとりくみを検討し学習を深めていたが、衛生推進者有資格者も増えてきたため、2014年度1月から有資格者、各分会にも参加を呼びかけ、とりくみの交流をしながら意見交換したり助言し合ったりしている。ほぼ毎月開催し、10月までに49回を数えた。

## C これまでのとりくみ



### (1) 衛生推進者を増やすとりくみ

#### ①衛生推進者養成講習の受講

2012年度までは、推進者をしている組合員は1人であった。組合員がそのポジションをとりやすくするために、2013年度から「衛生推進者養成講習」の受講を促進し、支部で受講料を補助した。その結果、少しずつ有資格者が増え、2015年度までに35人となった。

#### ②実際に衛生推進者になる

2013年度から「衛生推進者になる」ための学習ととりくみの交流を進めてきた。新たに推進者になっ学校のとりくみとメリットを紹介し、推進者をとるとりくみを提起した。

**紹介されたメリット（分会員が衛生推進者をしたことによってできたこと）**

- 労安に関する規程，通知等の職員への周知が確実にできた。
- 労働時間把握の結果をいかし，業務改善をし，超勤を減らした。
- 学期1回しか開催していなかった衛生委員会を毎月開催にした。
- 職員の健康診断の実施手順を作成して実施者や担当者を明記し，スムーズに実施できるようにした。
- 衛生委員会に推進者以外に分会代表が入るので，衛生委員会に分会員が2人入ることができた。

2014年度からは夏に「基礎からの労安セミナー」，秋に各地区での学習会，年度末に衛生推進者有資格者会議を実施している。2014年度のセミナーでは基本的事項の学習が中心であったが，2015年度からは実践報告も行い，具体的なとりくみを知ることができると好評だった。セミナーにあわせて『組合員のとびき 衛生委員会編』（2014）や『校種・規模・職種別労安実践報告集』（2016）を作成し，全分会に配布している。

**③衛生委員会の毎月開催**

ほとんどの学校で学期1回しか開催されていなかったが，労働時間把握の結果をいかすためにも毎月開催しなければうまく機能しないことから，衛生委員会の毎月開催についても大きな柱としてとりくんできた。各地区集会で「衛生委員会の毎月開催に向けたとりくみ」の学習会を実施し，毎月開催している学校の毎月開催に至る経緯と成果（7校分）を報告し，意見交換を行った。2016年度は11校で毎月開催している。

**（2）労働時間把握と事業仕分け等による超勤削減**

労働時間把握が始まった2013年度以降，出退時刻調査の結果をもとに超勤を削減をするとりくみについて学習し，それ以降毎年，出退時刻調査をもとにした教育課程編成期の事業仕分けについて提起しとりくんでいる。

**教育課程編成期の事業仕分けの方法（E C R Sの原則を採用する）**

**E C R S（イクルス）の原則**

- E (Eliminate)** **やめる** 廃止
- C (Combine)** **へらす** 統合，選別，回数，頻度，時間・期間，種類，規模，抽出
- R (Rearrange)** **かえる** 順序，手順，方法，場所，分担，時期，軽重，意識
- S (Simplify)** **簡単にする** 省略，簡素化，単純化，効率化，省力

E → C → R → S の順序で試すと効果が高いといわれている。

- ① 労働時間調査の結果を分析し，超勤削減目標（時間）を設定する。
- ② 目標時間数を達成できるよう，何を削減するべきか自由記入式の一次アンケート調査を実施する。
- ③ 一次アンケート調査で出された業務を数値化（ジョブサイズ＝所要時間×人数×回数）して，削減希望調査をとる（二次アンケート調査）。
- ④ 二次アンケート調査の結果をまとめ，（校長と協議の上）衛生委員会で論議し，その結果を教育課程編成会議・職員会議で提言する。

このとりくみにより各学校で改善された内容は，年度末にアンケート調査を実施し，各分会に紹介した。

衛生推進者が増える中で、このとりくみもひろがりを見せ、各学校で工夫しながら（月ごとにアンケート調査を実施、各学年の安全衛生委員会ファイルを作り月末の学年部会で月の業務（校務整理・超勤削減）の意見集約等）とりくみを進めている。

事業仕分けにより業務削減された内容例（[ ]の数字は削減時間（ジョブサイズ=所要時間×人数×回数）

暗唱大会の廃止 [5] 集団下校を月2回→1回 [22.5] 交通教室2回→1回 [8]  
発育計測3回→2回 [4.5] プール開き廃止 [6.7] 土曜日の朝活動縮小 [13.5]  
学年朝会の廃止 [87] 職員体育削減 [197] お別れ遠足の廃止 [111]  
日課表の見直し・整理（朝時間帯整理・教材研究時間確保） [900]  
1学期中間テストの廃止 [14] 委員会活動通年化 [56]  
創意の時間を縮小 [24] 学年通信の廃止 [33]  
運動会練習の削減・変更・期間短縮 [31] 水泳・陸上記録会練習の縮小 [30]  
問題集・ワークシート集の購入による教材準備の時間短縮 [54]  
調査物集計時間確保 [14] 職員ボランティア組織の自主性確保 [128]  
全体研修の廃止（個人研修へ） 企画委員会の廃止

そのほか、各学校の出退時刻調査の結果を各市町に情報開示請求を行い、一覧にまとめて北薩労安のホームページに掲載したり、「長時間勤務者に対する産業医等の面接指導」を活用するとりくみを提起しバックアップを行ったりしている。

### （3）その他

対策会議では、ホームページを開設し、労安に関するさまざまな資料や情報を提供している。北薩のこれまでのとりくみについても、ホームページに網羅されている。また、労働安全に関する相談窓口も設置しており、ホームページを通して県内外から問い合わせや相談が寄せられている。

## D とりくみに確信を持って

対策会議が発足してから4年半、これまで一貫して、「組合員が衛生推進者を担う」ことを中心にとりくみを構成してきたが、それまでの方針（教頭に推進者をさせるべき）とは真逆のとりくみであり、当初は支部内の組合員の中にも、戸惑いと疑心があった。それでも、少しずつ学習を積みながら、諦めずにとりくみと学習を続けてきた4年半であった。それは、まだまだ少ないながらも、組合員が衛生推進者を担った学校で、確実に衛生委員会が機能し業務改善をしているという実績があったからである。そして、今は、北薩支部がとりくんできたことを、鹿教組本部も方針に据え、他支部へと輪がひろがっている。

学校の労働安全衛生のいちばんの課題は超勤（長時間労働）である。「組合員が衛生推進者になることで、衛生委員会を毎月開催し、労働時間把握の結果をもとに業務改善をする」ことで超勤を削減でき、学校が安心して働ける職場となり、ひいては「学校教育の質の向上」にもつながっていく。今後も、さらに多くの学校で組合員が衛生推進者を担うことができるようとりくみを工夫しひろげていきたいと考えている。